

---

■ 平成 26 年度 第 2 回「学芸大学駅周辺地区懇談会」 議事概要 ■

日 時：平成 26 年 11 月 4 日（火） 午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分

場 所：目黒区鷹番住区センター 第 1 会議室

出席者：メンバー：6 名

目黒区：都市整備課：中澤課長、河原係長、馬瀬氏

道路工事課：伊藤氏、山下氏

コンサルタント：益永、小林、河井

---

## 1 概要

### ○区からの説明

- 1) 第 1 回懇談会の振り返り
- 2) 唐ヶ崎通りの交通安全対策における路側帯のカラー化について

### ○懇談

- 1) 街づくり通信
- 2) 商店街の取り組み
- 3) その他

## 2 意見要旨

### 1) 唐ヶ崎通りの交通安全対策における路側帯のカラー化について

#### ○路側帯の色について

- ・ 学大周辺の地区整備については、「あんしん歩行エリア」に位置づけてもらった点は住民として評価している。生活道路網がより活きるのはあと 5 年後くらいになると思う。環七や駒沢通り等の幹線道路に囲まれた学大周辺地域は、補助 26 号線とバス通りの交差点処理を効果的な整備にすることで、通過交通はほぼなくなり「歩行者安全エリア」として模範的な地域となる。また「ゾーン 30」にも指定され、広い範囲で 30km/h 以下という具体的な交通規制ができるようになることで、歩行者優先の生活道路となることは非常に評価ができる。
- ・ この生活道路とは自動車交通を制御すると共に、生活空間・街並みになじんでいる必要がある。そのため、先行して鷹番通りでは路側帯を黄土色系にしている。（決して黄色ではない）。
- ・ それに対する警察側の説明は非常に横暴である。鷹番通りで交通事故回数がふえているなら仕方ないが、増えていないのならなぜ黄土色がいけないのか説明がなっていない。生活道路は日常を支えるためのものであり、住民が利用する道路であることが基本。区にもそのような空間をつくってほしい。交通管理者が全ての権限を持つのではなく、道路管理者がきちんと理解して管理していくべきだと考える。

- ・ また、地区計画の中で定められる意匠のなかでも、色彩については街並みを破壊する色（原色）は使わない。茶系が一般的。緑は原色系であり、地区計画の中にあってはならない。それを道路に敷くのはありえない。個人的な意見ではあるが、唐ヶ崎通りにグリーンを使うなら、整備工事を行わないほうがよい。
- ・ 西宮市では、地元の自治会が反対し通学路の路側帯がグリーンになるならやめてほしいとの意見が通った事例もある。警察は意見を変えないと思うが、駅コンコースの中の舗装についても、今まで色々と意見を出して対応してもらってきた経緯もある。今回の件についても自分達の街のことを自分達で決めるためにはどうしたらいいのか、方法を考えて欲しい。
  - なぜダメなのかということについては、担当者が変わったことにより、改めて実査を行った結果である。他のエリアでグリーン以外を採用している事例については、区からも警察に話をしている。
  - 西宮市の例については、そのエリアは景観地区に指定されており、非常に景観の美しいエリアである。また路側帯の色を変える代わりに、別の安全対策を講じている。一方、区道は狭く、その中で対策を行うとなると限られたものになる。京都、愛知で通学時の事故が相次いだことを受け、通学路の緊急点検が行われ、平成 24 年に路側帯のグリーン化が統一された。もしグリーン以外の色を使うのであれば、地域の方が見守り・誘導を行う等、安全に対する代替策を講じる必要がある。景観を大切にしつつ、安全対策をどう講じるか考える必要がある。無いなら、無いなりに考えなければならない。但し、区もなぜ今回はダメなのかという考えはあるので、今後も協議はしていきたい。
  - 地区計画の話については、目黒区の景観計画では環七や目黒通り等では建物の色彩を指定しているが、この中にも鮮やかではないもののグリーンはある。
  - また、地区計画では路面表示の指定はしていない。道路については、地区計画で定めるものではなく、交通管理者（警察）と道路管理者が決めることとなっており、道路管理者は道路の機能の保全を行い、標識や路側帯等については交通管理者となる警察の了承が必要となる。事故が増えたとの話は聞いていないが、安全対策は必要。
  - 区としては、今回の色については自然な色に近い色合いにしたいとは考えているが、グリーンで進めさせていただきたい。色云々というよりも安全対策を講じることが重要であることと、国からの補助金が出ている為、今後のことを考えるとスムーズに進めていきたい。今回うまくいかないと、次の補助金がなくなってしまうこともある。
- ・ 指摘は正しいと思うが、落としどころを考える必要がある。進めていくことが大切。次回以降についても、協議はしていくと区は言っている。
- ・ 今回の出席者は 6 人、ずっと出席しているのは 3 人。多数決で決めるという話も出ているが、先ほどの意見にもあるように、会議を進めていく必要がある。指摘もそれに対する区の説明も前回と同じで、今後も変わらない。それは、決定権者はわれわれではないから。いつまでも色のことに拘る訳にはいかず、会議を実務的に進める必要がある。

あり、この議論を続ける必要はない。

- ・ 但し、今までの話の流れを知るものとしては、次は同じことが二度とおきないようにしてほしい。再び今までの経緯と全く違うことが起こるのであれば、私は会議に出席しない。

→区としては警察に対してどうしてか。という思いはある。今回は整備を進めていかなければならない為、グリーンで進めていきたいが、地元住民から声が出ている以上、関係課長等も碑文谷署へ協議に行かなければいけないと思っている。担当が変わったからは理由にならない。

- ・ 補助金を貰う為に、事前に予算要望を出して、了承が得られれば補助金が出ると思うが、申請内容と違うことをしてしまうと補助金は出なくなってしまうのではないかな。それもあって色を変えることができないという話だと思う。

→その通りで、これから設計審査を受けるところ。

→通常、路側帯の滑り止めには、緑色の骨材の上に鮮やかな色でコーティングを行っており、鷹番小学校前でやっているような状態になる。今回は、アースカラーでという要望に近づけるため、緑色の骨材の色を採用し、透明なコーティング材を用いた整備とすることを考えている。

- ・ 鷹番通りと東西商店街の色も、変わってしまう可能性がある。そうならないためにも、引き続き協議してほしい。

## 2) その他

### ○「ゾーン 30」について

- ・ 中央通り商店街で「ゾーン 30」を警察に申請しているという話がきたが、区役所の方には情報は入っているのか。

→申請がおりた状況である。始点は目黒通りから、終点はまだ決定していない。

- ・ 「ゾーン 30」は何か。と聞いたが、区長はわかっていない様子であった。「ゾーン 30」は区が主体となって大々的に取り組んでいると思ったが、そうではないのか。

→当然区長も理解している。但し「ゾーン 30」については区というよりも、警察が主体となってやっていること。

### ○補助 26 号線について

- ・ 碑文谷公園と鷹番小学校の 2 つの避難所は唐ヶ崎通りで結ばれているが、中央町の半分は 26 号線で分断されてしまうので、どのように連携をとるかを考えなければいけない。
- ・ 防災に関しては、必要なことがあれば今後一体として行っていきたいと考えている。補助 26 号線整備後の街がどのような形になるかイメージできない人もたくさんいる。いろんなことを早くから行いすぎても、それぞれ持つイメージが異なるので、意見がまとまらず会議がつまらなくなる。出席者にとって、身近でないから関心がない。商

店街の人は、街に関心がない。もう少し身近なものを感じるように行ってほしい。

### ○会議の進行について

- ・ なぜこれほど出席者が少ないのか。会場も小さい。  
→今回については、会の開催が急だったため、会場が確保できなかった。
- ・ 8年行っているが、1回目は50～60人程の出席者だった。しかし、出席者のほとんどは、駅の再開発についてとっていたようだが、実際は資料が多く時間はかかるし、身近な内容ではなかった為、出席者が少なくなった。
- ・ 過去の会議にも出席しているが、この会議では話の結論がでない為つまらない。
- ・ この会議で結論を出すことはなかなか難しい。今回は信号について、次回は路側帯の色についてなどひとつひとつの議題をしっかりと決めてやればいいのか、なかなかそのような進め方はできない。
- ・ 商店街の舗装もあのようになったのは、この会議によるもの。変なことをさせないためにやってきて結果は出ている。この会議に出てプロセスを知っている人は、成果が出てきていることがわかっている。8年間続けており今後も5年間は続くので、引き続きみんなで行ってほしい。
- ・ 他の地区を見てみても、このように長く続いている会はない。たとえ時間がかかることであっても、この会があることで、学大周辺の街づくりは区長も認め、国からの補助金が出ている。この会議は決して意味の無い会議ではなく、むしろ地元の人達が積極的に参加しないことが逆に不思議である。まちづくりは時間がかかるのを理解して参加してほしい。
- ・ 多くの人に関心を持ってもらえないと思う。
- ・ 中央町については、26号線は町会の区切りではないので、懇談会の範囲に道路の向こう側の地域まで入れていくべき。  
→その通りかと思うが、もう少し具体的にしないと難しい。今後検討していきたい。

### ○自転車について

- ・ 商店街側からは、自転車が少なくなるのは困るという意見がある。  
→もちろん自転車が減ることによりお客様が来なくなるという懸念の声はあるが、自転車の危険性は高いので、両立を図ることがとても大切と考えている。少しでも危険な行為をする人が減るようにしていきたい。前回の実態調査では、子供がスピードを出して自転車に乗っていることもあったので、色々と対策を考えていかないといけないと思っている。
- ・ コンコース内は「終日自転車進入禁止」とあるが、自転車を押しても入ってはダメというように読みとれる。その為、押しチャリキャンペーンがわかりにくい。自転車走行禁止等、もう少しわかりやすい表現にした方がよい。また、資料には午前7～9時、午後3～6時とあるが、それ以外の時間は押しチャリでなくて良いのか。

→まずは車の進入禁止の時間帯に限定し、段階的に行っていこうと考えている。

- 歩きスマホも危ないので、是非歩きスマホについても指導してもらいたい。今後事故がおこる。歩きスマホをより危なくしているのは放置自転車と看板。
- 放置自転車が減っているという意見もあるが、実態は減っていない。絶対数は減っているようだが、それでも学大周辺の放置自転車は多い。ティッシュ配り等継続的にやっっていくしかない。
- 駐輪場はたくさんある。月極を時間貸しにすればよいのではないか。
- 時代の変化とあわせて、取り組んでいくしかないと思う。

#### ○区からの連絡事項

- 今後も、引き続き協議する。まちづくりは皆さんが参加して意見を出していくことがまちづくりとなるため、今後とも、よろしくお願ひしたい。

以上